

広島大学病院

Hiroshima University Hospital Medical-Dental Liaison News

No. 24
2012. 1

ニュース



新年のごあいさつ



病院長 茶山 一彰

あけましておめでとうございます。

昨年は3月11日の大震災、原発事故、台風12号の襲来など、大変なことが相次いだ1年でした。広島では大きな災害はありませんでしたが、同じ日本人として深く受け止め、復興を目指して協力していかなければなりません。今年には災害のない良い年になってほしいと心から願っています。

広島大学病院は原発事故の事後対応などに貢献し、高い評価を受けています。職員一同、困難に直面しても負けることなく乗り切っていける体制をますます充実させたいと思います。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

ご自由にお持ち帰りください。

どこが違うの？

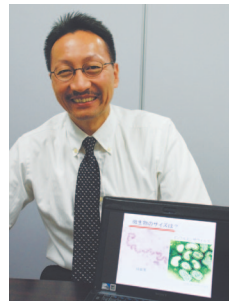


気になる
病院の言葉②

「細菌とウイルス」

抗生物質はウイルスに無効

寒さが一段と厳しくなってきました。食中毒やインフルエンザといった感染症を引き起こす原因としておなじみの細菌(バクテリア)とウイルス。半面、「区別がよく分からない」といった声もしばしば耳にします。感染症科の大毛宏喜教授に説明してもらいました。



大毛宏喜教授(感染症科)

■細菌は普通の顕微鏡で見えますが、
ウイルスは電子顕微鏡を使わないと見えません

人の背丈を地球の直径にたとえると、細菌の大きさは3階建てのビルくらい、ウイルスはペットの犬ほどのサイズです。違いは大きさだけではなく、核と細胞質を持っている細菌は外から栄養を取り込み、自力で分裂して増えます。一方、遺伝子の固まりであるウイルスは自力で増殖できず、人などの細胞に入り込みその仕組みを使って増えます。



■症状だけで見分けるのは困難です

たとえば下痢の原因としては、病原性大腸菌やサルモネラなどの細菌のほかにもノロウイルスもあります。発熱や下痢といった症状は病原体の感染に対する体の反応なので、目立った違いはありません。原因が何なのか、正しく見極めることが大切です。

■細菌感染は積極的に治療します

原因を確かめることが必要なのは治療法が大きく異なるからです。細菌感染の場合、抗生物質(いわゆる抗生物質)を用いて積極的に治療します。これに対し、風邪などのウイルスには抗生物質は効かず、体の免疫力による回復を待つことが多いのです。もちろんヘルペスやインフルエンザのように、抗ウイルス薬を積極的に使うケースもあります。



■どちらも手洗いが大事です

細菌もウイルスも手につくついて口などから体に入ります。それだけに感染を防ぐ上で非常に重要なのが手洗いです。正しい手の洗い方を日ごろから身につけておきましょう。

正しい手洗いの方法



- 1 手のひらを合わせてよくこする
- 2 手の甲を伸ばすようにこする
- 3 指先つめの間を入念にこする
- 4 指の間を十分に洗う
- 5 親指と手のひらをねじり洗います
- 6 手首を忘れずに洗う



ゲスト・インタビュー



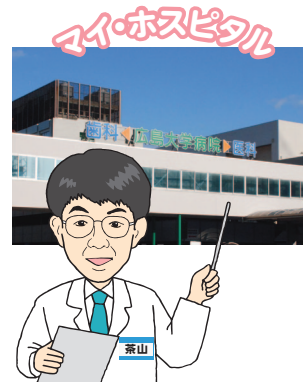
木村 健 アイオワ大学医学部名誉教授に聞く 「全国の範となる学生・医師教育に挑戦を」

広島大学病院の特別顧問を務める米アイオワ大学医学部の木村健名誉教授が昨年11月、当病院を視察しました。小児外科医として米国での臨床経験も豊富な木村名誉教授の目に現状はどう映ったのでしょうか。

一ベッドあたりの診療収益で、当病院は全国42の国立大学病院でトップになりました

「よい医療をより多くの患者さんに提供すること」を単純明確な到達目標にしてきた結果です。経営改善が生み出した収益をこの目標に再投資すると、人材の補充や施設設備の近代化が可能となり、病院はさらなる上昇スパイラルに乗ることが可能です。

顧問の仕事はこのスパイラルの設計・監視・保全です。顧問就任以来の7年間に、医師はもとより職員の間にも「マイ・ホスピタル」という誇りと気風が定着してきたような印象を持っています。



一今後の課題は何でしょうか

経営問題が解決したら、次には大学病院の持つ使命と目標を厳しく定め、その到達と実行に向かうことが重要です。「親方日の丸」の時代と違って、これからは大学が社会の重要機能を担う一員として貢献する明確な事実表示が求められるでしょう。

一具体的にどう取り組みば

まず医学生教育。どんな病院でもスタッフは多忙ですが、院内で学生との接触時間を長く取り、医師以前に教養ある社会人として恥ずかしくない紳士淑女に育てることです。

次に大学病院は「単独で診療のできる」各科の専門医を育てる場であらねばなりません。国民が求めているのは信頼できる頭脳と技能を持つ医師なのですから。そんな医師を育てるためには新しい発想、価値観、使命感を織り込んだ研修プログラムが必要です。

広島大学病院は病院経営で全国のトップになれたのですから、できなくはありません。医学教育、卒後研修の面でも広島大学が全国の範となるようなチャレンジを、大いに期待しています。

一長時間の診療待ちや駐車場の混雑など、どの大学病院にも共通する悩みがあります

「病院では誰よりも患者さんが一番大切な人。その大切な人の満足感や快適感を満たすのが全スタッフの使命である」というプリンシプル(基本的理念)を全スタッフが共有することです。患者さんの利便のためには何をすべきかと考えれば、方策は必ず見つかります。

【きむら・けん】1937年府中市生まれ。神戸大学医学部卒業。兵庫県立こども病院在任中に開発した新手術により招聘を受け米国移住。アイオワ大学外科教授兼小児外科部長を歴任する傍ら、病院経営や医療改革に深く関わる。2004年、広島大学病院特別顧問に就任。

院内での催し (2012年2月～3月まで)

患者サロン(がん治療を支える)

2月16日(木) 13:30～14:30

前立腺がんの治療

3月14日(水) 13:30～14:30

乳がんの治療

お問合わせ先：広島大学病院 がん医療相談室 082-257-5079(直通)

肝臓病教室

3月28日(水) 14:30～16:00

肝移植について

お問合わせ先：広島大学病院 肝疾患相談室 082-257-1541(直通)

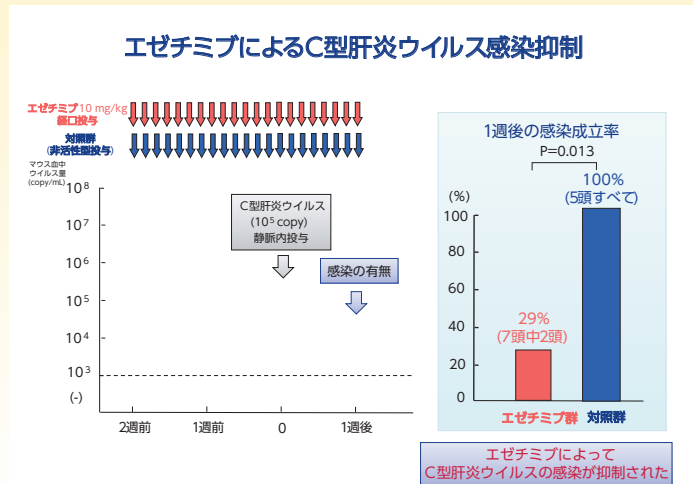
C型肝炎ウイルスの新しいレセプター(受容体)の発見について記者発表しました

広島大学病院の茶山一彰病院長(消化器・代謝内科教授)の研究グループは米国イリノイ大学との共同研究で、「NPC1L1」という肝臓の細胞の表面にあるタンパク質がC型肝炎ウイルスを取り込むレセプター(受容体)として作用していることを突き止めました。

NPC1L1は小腸の粘膜にもあってコレステロールの吸収に働いていることが知られています。今回、この働きを阻害する高脂血症治療薬「エゼチミブ」を使うことで、C型肝炎ウイルスの感染が大幅に抑えられました。広島大学はヒトの肝細胞を移植したマウスを使った動物実験を行い、エゼチミブの効果を実証しました。

このレセプターはどのタイプのC型肝炎ウイルスも利用すると考えられることから、今回の発見が新しい治療法の開発につながると期待されます。

本研究成果は米国の医学雑誌「Nature Medicine」のオンライン速報版(1月9日)に掲載されました。



連携口腔ケアサポートチームが発足しました

口内炎の痛みで食べ物や水も飲み込めない。がんなど治療中の患者さんに起きやすい口の中のトラブルを防ぐ「連携口腔ケアサポートチーム」が、1月から本格的に動き始めました。

抗がん剤や放射線治療を受けると、口内炎に加え、免疫力の低下により虫歯や菌周病を起こす細菌も繁殖しやすくなります。一方、ブラッシングや歯石を取り除いて口の中を清潔に保てば、こうした細菌の数が著しく減ることが分かりました。その結果、食欲が高まるほか誤嚥性肺炎を防ぐ効果も明らかになっています。

発足したサポートチームには医師、歯科医師、歯科衛生士、看護師、薬剤師など約10人が職種の枠を超えて参加しています。当面、がんや脳梗塞などで入院中の患者さんの口の中の状態を定期的にチェックし、専門的な立場から口腔ケアのアドバイスをを行います。

さらに広島県歯科医師会と連携し、退院後も地域の歯科医療機関で継続したケアが受けられる態勢を整えています。

霞さんぽ②

懐かしい駄菓子も

売店みどり

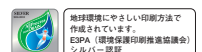
(入院棟2階ひろば前)

日用雑貨から衣類、食品まで豊富な品ぞろえと質の良さで、患者さんはもとより職員にも評判のお店です。この時季、売れているのが保温性を高めた綿の肌着。ケア用の帽子は「着け心地がいい」と口コミで他病院からも買いに来られます。食べ物では自然素材を生かした駄菓子が人気だそうです。広島県内産の米や酢など「こだわり」の味も、どなたでも利用できます。気軽にのぞいてみませんか。

利用時間：平日/8:00~20:00 土日祝/9:00~17:00

ご意見やご感想は下記へお願いします。

広島大学病院 秘書室広報担当 〒734-8551 広島市南区霞一丁目2番3号 Tel 082-257-5014 Fax 082-257-5074



地球環境にやさしい印刷方法で
作成されています。
ESPA (環境保護印刷推進協議会)
シール認証